

小夜の中山と言う所

SAYONONAKAYAMA

長い間、都から東国へ旅する時旅人を悩ませてきた大きな河川や峠が横たわっていた。此処小夜の中山もその一つであった。

この峠を無事に越えることを坂の登り口で山の神に祈った時もあった。険しい峠道を行き交う時、峠から見渡す遠近の山々の姿は時を越え旅人に多くの感銘をあたえていた。

西行法師（平安時代）、松尾芭蕉（江戸時代）をはじめ多くの歌人、俳人が此処小夜の中山で幾多の作品を残し、

江戸時代後期には、廣重、北斎等が浮世絵に残した。

明治時代に入り鉄道や国道は低地に開け、

この険しい峠の小夜の中山の往来は絶え、地元の人々の通る間道となった。

夜泣き石の伝説などが残り、久延寺、子育て館の扇屋、

木立に囲まれた二十余軒の民家がたたずむ茶畑の広がる趣のあるところである。

今日、東京から京都の間で住時を偲ぶことのできる数少ない所である。



夢灯

- ◆所在地
〒436-0002 静岡県掛川市佐夜鹿字柳屋敷298-2
- ◆電話
0537(27)2237
- ◆交通案内
国1バイパス日坂ICを出、旧国1を金谷方面（東）へ0.2キロほど進み小夜の中山公園入り口の案内標識にしたがい2キロほど進む。公園の前。
- ◆収蔵品
浮世絵（金谷・日坂・掛川・袋井・見附・浜松・舞坂・荒井・白須賀）の宿駅
- ◆入館のご案内
◎開館日 土・日曜日、祝日
◎開館時間 10:00～16:00
◎休館日 月曜日～金曜日、年末年始
◎施設維持拡充協力金
大人400円
中・高校生200円（小学生以下なし）
- ◆展示換え
年4回
- ◆お願い
◎展示品に手を触れないでください。
◎館内は禁煙です。



小夜の中山 浮世絵美術館

夢灯

ゆめあかり

SAYONONAKAYAMA
UKIYO E MUSEUM
YUMEAKARI

灯
火
夢

女
中
三
次
日
坂

夢灯（ゆめあかり）のころ YUMEAKARI

当館は旧東海道の小夜の中山の険しい峠の頂きに位置し、昔日に旅人が遠くの山々の景色を望み一息いれた所にある。今尚峠の各所に歌碑も建ち、今日でも旅人の味わった景色を追体験でき当時を偲ぶことができる。春夏秋冬、晴曇雨天、朝昼夕の絶妙な趣、変化を常に味わうことができる。当館は廣重、北斎、その他江戸時代後期の浮世絵師の東海道の宿駅の作品を集め古の人々の心、夢・灯火（ともしび）に触れていただけることを願っている。この館名の「夢灯」の所似がある。



歌川広重 東海道五拾三次之内(隸書東海道)日坂



歌川國長(東海道五十三次之内)日坂



歌川芳員 東海道五十三次内日坂



歌川広重 東海道五拾三次(狂歌入り東海道)日坂



葛飾北斎 東海道五十三次日坂



歌川広重 東海道五十三次之内(行書東海道)日坂